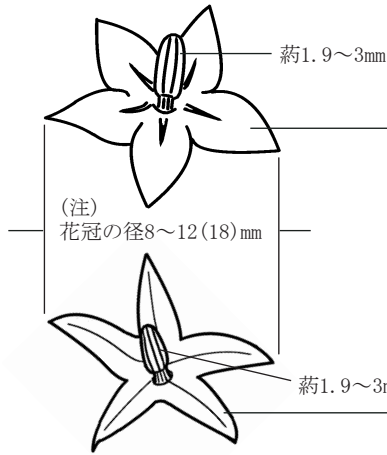


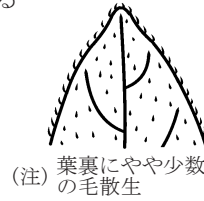
ナス科 ナス属(Solanum) イヌホオズキ類 図入り検索表(p1)

《花がある時》

- ◆ A 葯の長さ1.9~3mm
- ◇ 花冠の径8~12(18)mm
- ◇ 花少ないと散形花序的
花多いと不整総状花序的



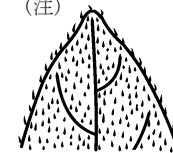
- ◆ B 花冠の裂片は巾広く三角形、裂片基部はだぶつき重なり切込の底は見え難い
 - ◇ 花序に5~12花がつく
 - ◇ 葉両面にやや少数の毛が散生する
- 【イヌホオズキ】



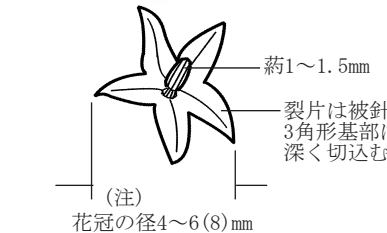
裂片は三角形基部だぶつき

- ◆ B 花冠の裂片は巾狭く被針状三角形、基部近くまで切込む
 - ◇ 花序に5~8花がつく
 - ◇ 葉両面にやや多数の毛が散生する
- 【オオイヌホオズキ】

葉裏にやや多数の毛散生



裂片は被針状三角形基部は深く切込む



- ◆ A 葯の長さ1~1.5mm
- ◇ 花冠の径4~6(8)mm
- ◇ 花冠の裂片は巾狭く被針状三角形、基部近くまで切込む

- ◆ B 花序に1~4花がつき、放射状散形花序にみえる(花少いため小花柄着部は花軸先端に集中する)
 - ◇ 葉両面にやや多数の毛が散生する
- 【アメリカイヌホオズキ】

- ◆ B 花序に(4)5~9(12)花がつき、不整な散形花序にみえる(小花柄着部は花軸先端に集中する)(花序の花数多いと、下方の花の小花柄着部は少し離れてつくことが多い) [テリミノイヌホオズキ群]

(果実がない場合は以下の区別難しい)

- ◆ C 茎は硬く直立し、基部は木質化する;若部に細毛密生
 - ◇ 花序に(3)8~9(12)花がつき、やや2列に並ぶ散形花序
 - ◇ 葉は狭卵形~広被針形、全縁で時に少数の波状歯がある、細毛があり次第に無毛となる(時に細毛残る)
- 【カンザシイヌホオズキ】

(勝山2001・2003で認識されるテリミノイヌホオズキ)

- ◆ C 茎は軟質でよく枝を分け、長く伸びると倒伏し地面に広がることもある;若茎に細毛散生
 - ◇ 花序に(4)5~7花がつき、花柄がやや不同長な散形花序
 - ◇ 葉は卵形~三角状卵形、下半部に波状切込あり、全体毛少なく裏脈上に短毛あり
- 【テリミノイヌホオズキ】

(長田1976のテリミノイヌホオズキ)

- ◆ C 花序に4~7花がつく
 - ◇ 葉は両端狭く、特に先が狭く尖り、全縁でまれに浅い歯が出る、葉裏に毛がやや多い
- 【テリミノイヌホオズキ】

(他にも幾つかの型があるらしい)



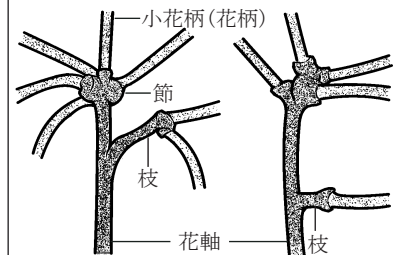
◇花序の形状では区別できない(1)

イヌホオズキ・オオイヌホオズキ・アメリカイヌホオズキでは、花序の形状(散形・集散形・総状花序)で検索する方法があるが、これらは種の区別にはふむきである。

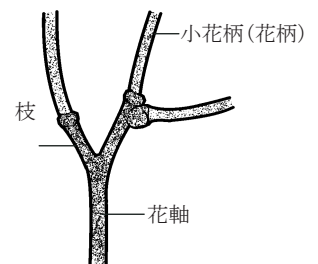
花序は基本的にはほぼ同じ形質で、花柄(小花柄)の花軸への着部は整然と並ばず不規則で、不整な散形花序・不整な総状花序となる。花数が少ない場合、花柄(小花柄)は花軸の先端付近に集まり、一見散形花序となる。花数が多いと下方の花の花柄着部がやや離れてつき、散形はくずれて不整な総状花序となる。

花軸は必ずしも1本の単純な性質のものではなく、短い枝をだすものもかなりみられる。花軸の花柄着部は膨らんだ節状で、それが不規則に並ぶため、花軸に短い枝が出ると全体はいつそうバランスの悪い形状になる。(2頁の図につづく)

(花軸から出る枝の図)



(例: オオイヌホオズキ)



(例: アメリカイヌホオズキ)

◇他にムラサキイヌホオズキ・ハゴロモイヌホオズキなどが知られるが、分類群として区別できるものなのか、既存の種類の変化範囲に含まれるのかなど十分に調べられておらず、新たな研究がなされるまでは、特に分けなくてよいと考える。(注: 花冠の径は、状態の良い花が少なく安定しないことが多い。葉裏の毛は変化範囲があるとも考えられる)

(筆者はテリミノイヌホオズキ群の実物での検証数が少なく、ここでは主に文献情報などからの判断である。葉裏の毛の状態はイヌホオズキ・オオイヌホオズキ・アメリカイヌホオズキでは図のような違いがあり、参考に図を載せた。筆者の検証したカンザシイヌホオズキの葉裏では毛の密度が高く図の様であったが、さらに多くの検証をしなければならず、参考程度と考えていただきたい。)

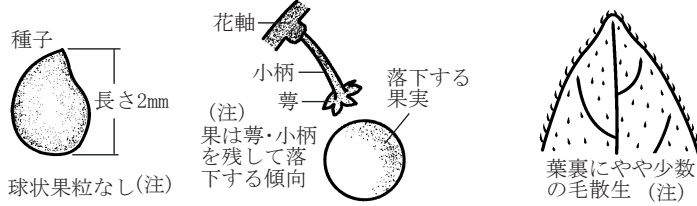
ナス科 ナス属(Solanum) イヌホオズキ類 図入り検索表(p2)

《熟果がある時》

- ◆ A 果径7~10mm、やや鈍い光沢がある



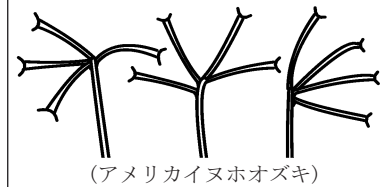
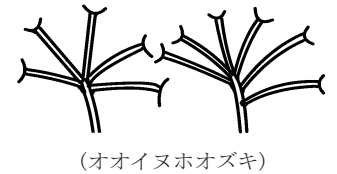
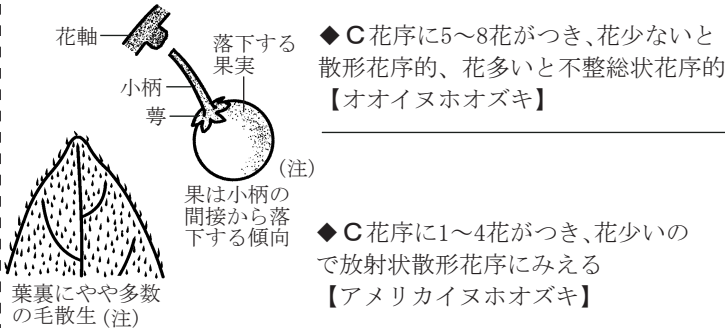
- ◆ B 種子の長さ2mmほど、幅は1mm以上
- ◇ 花序に5~12花がつき、花少ないと散形花序的、花多いと不整総状花序的
- ◇ 葉両面に毛がやや少数あり散生する
- ◇ 球状果粒はない(2個あった例あり)
- ◇ 萼・小柄を残して熟果は落下する場合があります【イヌホオズキ】



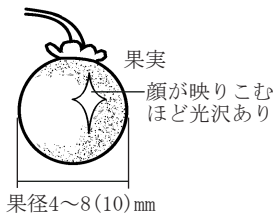
- ◇ 花序の形状では区別できない(2)(1頁からのつづき)



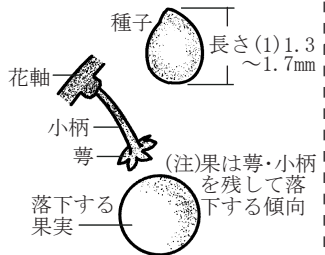
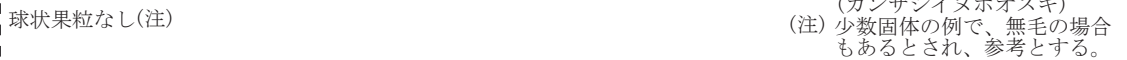
- ◆ B 種子の長さ1~1.3mm、幅は1mm以下
 - ◇ 葉両面にやや多数の毛が散生する
 - ◇ 球状果粒は4~10個ある
 - ◇ 萼・小柄を残さず熟果は落下する傾向がある
- (花がない場合、花数以外のよい区別点がない)



- ◆ A 果径4~8(10)mm、顔が映り込むような強い光沢がある



- ◆ B 小花柄は直線的で、果実は上か横向きする(下垂せず)
 - ◇ 球状顆粒はない
 - ◇ 花序に(3)8~9(12)花がつき、やや2列に並ぶ散形花序
 - ◇ 種子長さ1.3~1.7mm
 - ◇ 茎は硬く直立し、基部は木質化する
 - ◇ 葉は狭卵形~広披針形、全縁で時に少数の波状歯がある、細毛があり次第に無毛となる(時に細毛残る)
- 【カンザシイヌホオズキ】



- ◆ B 果実は下垂し、小花柄は湾曲する
- ◇ 球状顆粒は1~4個ある【テリミノイヌホオズキ】
- (幾つかの型が含まれるらしいが、区別点が判明するまでは果実が下垂するものはテリミノイヌホオズキとしておく)

- ◇ 種子の長さ1~1.5(1.7)mm、若い果実表面に白斑紋がでる傾向がある
- ◇ 萼・小柄を残して熟果は落下する場合が多い
- ◇ 花序に(4)5~9(12)花つき、不整な散形花序にみえる(小花柄着部は花軸先端に集中する)
- [テリミノイヌホオズキ群]
- (花序の花数多いと、下方の花の小柄着部は少し離れてつくことが多い)
- (参考: 勝山2001・2003で認識されているテリミノイヌホオズキ)
- ◇ 花序に(4)5~7花がつき、果柄がやや不同長な散形花序
- ◇ 種子約1.5mm
- ◇ 茎は軟質でよく枝を分け、長く伸びると倒伏し地面に広がることある
- ◇ 葉は卵形~3角状卵形、下半部に波状切込あり、全体毛少なく裏脈上に短毛あり
- (参考: 長田1976のテリミノイヌホオズキ)
- ◇ 花序に4~7花がつく
- ◇ 種子長さ1mm
- ◇ 葉は両端狭く、特に先が狭く尖り、全縁でまれに浅い歯が出る、葉裏に毛がやや多い
- (他にも幾つかの型があるらしい)

(注: 球状果粒は調べるのに手間がかかり、果実の落下時の性質は分かり難い場合もあり、生時には他の形質に明確な違いがある事から、同定に無理に使用する必要はない。葉裏の毛は変化範囲があるとも考えられる)